

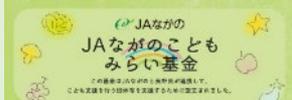
事業名 「JAながのこどもみらい基金」による 食育おやこ食堂支援

事業の概要

「こどもみらい基金」は、地域のひととの「あたたかなつながり」のなかで、子ども自身が困難を乗り越えて自立する力を付けてもらうために設立された。JAながの管内の子どもの居場所づくり、学習支援、食事提供など、多様な活動を支援している。

2019年度（スタート時点）は管内の子ども食堂を運営する23団体に食材購入費を支援。さらに、JAながののキャンペーンやイベントの売上の一部は、JAながの管内こども支援活動を行う団体への助成に充てられている。

<https://www.mirai-kikin.or.jp/mirai/sponsor/6906.html>



背景・経緯

JAながのと長野県は2017年6月16日、子どもたちに食事や学習の機会を提供をする「信州こどもカフェ・こども食堂」への支援や農畜産物のプロモーションなどを行う共同プロジェクトを始めると発表。

「JAながのこども共済みらい基金」を設立し、総額1,000万円の規模で、子どもの居場所づくりを支援。JAは農業振興と地域貢献の一環として、JA共済の「地域・農業活性化積立金」を活用して支援に取り組む。



事業のポイント

子どもたちの安心で安定した暮らしを作る応援

豊田組合長は「JA管内の農畜産物を通じ、子どもたちの食へのサポートを行い、安心して安定した暮らしをつくる応援をしていきたい。県内外で管内の農畜産物のPRをしていきたい」と意気込みを示した。

県と単位JAが連携する事業推進のモデルとなる

阿部知事は「食材提供や基金の設立は、子ども支援への力強い取り組みになる。JAの取り組みと県の政策の目指すべき方向性が合致した。県とJAのコラボのモデルになるもので、ぜひ成功させていきたい」と強調した。



子ども食堂で提供される料理を作る公開講座の受講生ら

事業の効果

2018年度7月、JAながの管内のこども食堂食材費支援は7団体(支援金額251,243円)から13団体(1,469,425円)に。2019年度スタート時点ですでに23団体となった。



連携する事業等



JAながの女性部によるフードドライブ活動推進
グリーン購入、3R活動、フードドライブといった共通する理念を持つ活動について、「できることからはじめよう」と女性部中心に始まった活動。年に3回のイベント時に「余ったものを必要な人に」渡すために「みんなで持ち寄り」声掛けをし、比較的消費期限の長い加工食品や調味料等を集めている。JAながの女性部で集約し、子ども食堂やNPOホットライン信州、信州フードバンク等へ送付。

将来性・発展的展開

食材とともに様々なものをシェア

古書や学用品、古着等のリユース、未使用のシーツやタオルを特別養護老人ホームで活用。



福祉と食育のテーマ「りんごの郷ご縁日」withアグリ

食材購入支援は直売所への誘客とあわせて、地産地消推進にも貢献。農業体験や施設見学等の参加型の取組みでJAファンを増やす。

都心のアンテナ店舗を活用した販売・PR

しあわせ信州シェアスペース「銀座NAGANO」において、JAながのフルーツマルシェを開催。試食提供とともに農産物の販売・PRを行った。